

平成29年度 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（2年次）

研究目標

- ◎ 考える力を育む手立てを設定した提案授業をもとに、相手の意見を聞き、受け止め、伝えるためには、どのような手立てが必要か授業づくり、授業実践を通して探っていく。

研究の視点

- 【視点1】考えを引き出す指導の工夫
- 【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫
- 【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと（成果）

- ・話す態度や聞く態度が育ってきた。（低）
- ・理由付けしながら話すことができるようになってきている。（低）
- ・課題や発問に対して、目的を持って読み解く力が付いた。（中）
- ・個人ワークやグループワークを通して、一人一人が自分の考えを持つことができるようになった。（高）
- ・相手（先生方）のことを考えて活動することができるようになってきた。（低）
- ・インタビューなどの経験をすることができた。（特）
- ・互いに認め合うことができるようになってきた。（特）
- ・自分のこととして考え、話そうとする力。（こ）
- ・低・中・高学年で共通して、導入での見通しを持たせること、板書時のめあてとまとめの書き方、ペア学習やグループ学習での話し合い、学習の振り返りなどのスタイルを授業に取り入れたため、身に付けさせることができた。（少）

自分の考えを持つことができるようになった。
自分の考えの理由を説明できるようになった。
相手の考えを聞き相違点・共通点・良さがわかるようになった。

② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力（課題）

- ・見通しを持ちながら、話し合いを進行できる力を身に付けさせたい。（低）
- ・相手を意識した話し方を身に付けさせたい。（低）
- ・話し合いの方向を意識し、意見を紹介するだけではなく、さらにより考えを練り上げていく力（中）
- ・考えを表現し、互いに交流しながら、自分の考えを更に深めることができるような力を身に付けさせたい。（高）
- ・相手（友達）のことを考えて行動する力（特）
- ・今年度と同じく、自信を持って言葉で表現する能力。（こ）
- ・自立解決で自分の考えをしっかりと持ち、その理由や根拠が説明できる力を身に付けさせたい。（少）

考えを表現し、互いに交流しながら、早良により考えを練り上げる力

③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか（次年度）

- ・各教科や日常生活場面で対話的な学びができる場を作っていく。（低）
- ・研究テーマ・研究の視点の継続。（中）
- ・3人組による話し合い活動を、様々な教科で行い、表現したり交流したりする機会を継続して行う。（高）
- ・話し合いの際には、話し合う必要感を持たせてから、課題を明確に提示していく。（高）
- ・コミュニケーション能力を高める。（特）
- ・よいところの認め合い。（日常生活、生活単元）（特）
- ・今年度の研究主題を継続したい。有効な手立てについて、より研究を深めていきたい。（こ）
- ・今後も手立てとして、「導入時での既習事項の確認」や「自分の考えをもちその根拠を説明すること」「学習の振り返りでは、自分の言葉でまとめること」を引き続き指導していきたい。（少）

研究テーマ・研究の視点の継続

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

課題…見通しが持てるもの 何ができればいいのか付けたい力が明確なもの
発問…指導者が明解を持っていること 考えを練り上げるに丁度いい難しさのもの

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

双方向であること 互いの意見の検証をする
「絞る」最も良い考えを見つける
「広げる」別解の可能性を探る
「深める」よりよい考えにするために必要なことを考える

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

付けたい力にそった振り返り
友達の良さを見つける

低学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（2年次）

1 低学年研究目標

対話を通して、考えを深める能力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- 「話し方」「聞き方」の話型揭示は有効だった。
- 振り返り時（導入）の焦点化は発達段階的に効果があった。
- ワークシートの提示方法（一人一人がよいか、全体での揭示がよいか等）を考える。
- 上位群の児童が自分の考えを更に引き出して広げたり深めたりできる手立てを考えることが必要である。
- ワークシートで友達の話聞いて気付いたことや分からなかったことをメモするという作業は発達段階的には難しかった。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- ペアやグループ活動を段階的に取り入れたことで、話すことに慣らすことができ、対話の基本を定着させることができた。
- 児童の興味とやる気を引き出すために“メダル”や“ワークシート”“約束カード”を用意したことは有効的であった。
- 学習の途中で良いモデルを紹介して全体で共有化させることで、対話の質を更に高めることができたかもしれない。
- 話し合いの時間を十分に確保できるように時間配分に留意する。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- 朝の会や帰りの会、国語科以外の教科でも話す活動を取り入れることができた。
- 話型等の大事なポイントを常時掲示しておくともよいかかもしれない。

3 考える力を育む授業をつくるために（次年度に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと
 - ・話す態度や聞く態度が育ってきた。
 - ・理由付けしながら話すことができるようになってきている。
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力
 - ・見通しを持ちながら、話し合いを進行できる力を身に付けさせたい。
 - ・相手を意識した話し方を身に付けさせたい。
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか
 - ・各教科や日常生活場面で対話的な学びができる場を作っていく。

中学年部 研究成果と今後の課題

研究主題 考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（2年次）

1 中学年研究目標

目的に応じ、内容の中心を捉えながら読む能力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- 主題にせまる「家族」「ふるさと」「平和」等のテーマに沿った発問を設定することで、目的に応じて自分の考えを書いたり、話し合ったりすることができた。
- 「その土地の環境・暮らし」と「家のつくり・工夫」という2つの観点を明確に持って読み解くことで、表にまとめたり自分の言葉で再構成したりする力が付いた。
- 教材文に出てくる国の気候・風土の特徴を補足することにより、叙述からは読み取れないところをイメージしやすくなり、家のつくりと土地の特徴との関係性をつかむことができた。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- 自分の考えをしっかりと持たせ、グループワークをすることで自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。
- 書かれていることを再構成して自分の言葉で文にしてみる、という意味で、友達に向かって話してみるということは、効果的であった。相手に意味が通じるように注意して話している様子が見られた。
- 「なぜなら」「だから」とい接続語を用いることを意識させることで、2つの事柄を関連づけて説明することができた。
- 「考えを深める」ペアワークなことを意識して話し合っているペアと、意見の紹介で留まっているペアが見られた。話し合いの方向を意識できるようにしていきたい。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- 学習のねらいに対し、分かったことや友達の考えでよいと思ったことを学習感想としてまとめることで、日常生活でも同じように活動できる機会が増えている。
- 学習して分かったことを、ノートに記録とし蓄積することによって、文章全体を貫く主題や要点をつかんで読み、他の作品や事例に活用しようとする態度が育った。
- 授業前半で自分の意見がまとまらなかった児童の変容を確認したり、次の課題を考えたりする活動にしていきたい

3 考える力を育む授業をつくために（次年度に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと
課題や発問に対して、目的を持って読み解く力が付いた。
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力
話し合いの方向を意識し、意見を紹介するだけでなく、さらにより考えを練り上げていく力
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか
研究テーマ・研究の視点の継続してさらに児童の考える力を伸ばしていきたい。

高学年部 研究成果と今後の課題

研究主題 **考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（2年次）**

1 高学年研究目標

自分の考えを深め、表現する力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- ・自分の考えを持たせ、進んで発表することができるような課題・発問の工夫
- ・教師自身が見通しを持って授業を進めることができた。
 - ・考える対象を焦点化して主発問を吟味した結果、児童一人一人がしっかりと考えを持つことができていた。
- ・最後の一文に関する発問については、筆者の思いや願いを読み取らせるため、誰の視点に立って考えさせるかを検討しながら吟味する必要があった。
 - ・紳士側と山猫側のそれぞれの視点で、叙述から読み取るのか、想像するのかを明確にする必要があった。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- ・友達と考えを相互に伝え合い、自分の考えを深めることができるような学習活動の工夫
- ・3人組によるグループは、交流しやすい学習形態だった。
 - ・グループ活動の際、机を合わせて話し合わせた結果、落ち着いて考えを交流することができた。
 - ・ノートに友達の考えを書き留める欄を設けたことで、友達の考えを意識して聞いたり、書き留めたりする児童が増えた。
 - ・扱う文をワークシートに提示することで、考えるべき課題が明確になった。また、話し合う内容も明確になった。
- ・個人ワークにおいて考える時間を確保しないと、グループワークによる活動の深まりが不十分になる。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- ・学習したことを振り返り、学んだことや感じたことを表現できる方法の工夫（まとめ・学習感想）
- ・授業の終末に、『「ヒロシマのうた」からの訴え』として、自分の考えを書き残すことを継続して行ったことは、考えを振り返らせる上で効果的だった。
 - ・授業の終末に「山猫軒のひみつ」ということで、物語の構成や仕掛け、表現について面白いと思ったことを蓄積し、観点を持って学習を振り返らせることができた。
 - ・単元の最後に解説文を書かせることで、作品の魅力を再確認させながら学習したことをまとめさせるだけでなく、自分の生き方につなげて考えさせることができた。
 - ・単元の最後にリーフレットを書かせるという目的を明確にし、振り返りを蓄積したことで、リーフレットを書くことに役立った。また、リーフレットの見本を提示することで、作るものを確認することができた。
- ・特に下位群の児童にとっては『「ヒロシマのうた」からの訴え』を書かせる際、各時間ごとに内容を焦点化して示す必要があった。

3 考える力を育む授業をつくために（次年度に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと
 - ・個人ワークやグループワークを通して、一人一人が自分の考えを持つことができるようになった。
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力
 - ・考えを表現し、互いに交流しながら、自分の考えを更に深めることができるような力を身に付けさせたい。
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか
 - ・3人組による話し合い活動を、様々な教科で行い、表現したり交流したりする機会を継続して行う。
 - ・話し合いの際には、話し合う必要感を持たせてから、課題を明確に提示していく。

少人数指導部 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（2年次）

1 少人数指導研究目標

既習事項を活用し、課題に対する自分の考えを持つ能力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- ・導入で既習事項の確認と、本時の内容の予告をし、見通しを持たせる。
- 低学年での導入に、CDの九九ラップを活用したのは、子供の意欲を高めることに有効だった。中学年では、既習事項の確認をするために、算数クイズにしたり、写真を提示したりして、興味を持たせることができた。高学年では、前時におさえた好きなお鍋のカードの順位の並べ方を導入で活用したことは、本時の学習内容の見通しを持たせるのに有効だった。カードを色分けしたことも見やすくなりよかった。
- 今後も、学年の実態に合わせた導入の工夫が必要である。授業で活用できる掲示物を作成するなど、事前の準備の時間を確保できるようにしたい。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- ・実物投影機でノートを映したり、黒板やホワイトボードに考えを書いたりして、発表の仕方を工夫する。
- 自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりするために、学年の実態に合わせてペア学習や3人、4人のグループ活動など多様な形態にすることで全員が意見の伝え合いに参加することができた。高学年では、グループごとの意見をまとめる時にホワイトボードを活用したのがよかった。
- 自力解決で自分の考えが書けない子への支援や、ペア学習の伝え合いの時に間違えていた子への支援が必要である。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- ・学習を振り返り、本時のまとめを生かして、学習感想を書かせる。
- 本時のまとめの後に学習を振り返る時間を取り、回を重ねることで子供たちも授業の最後に自分の言葉でまとめる習慣がついてきた。学年に応じて、振り返りを挙手させたり、ノートに書いたことを紹介したりすることができた。
- 学習感想を書くための時間の確保が必要である。書く内容も、生活感想のようにならないように、何を学習したか書かせる視点を与えていった方がよい。

3 考える力を育む授業をつくるために（次年度に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと
低・中・高学年で共通して、導入での見通しを持たせること、板書時のめあてとまとめの書き方、ペア学習やグループ学習での話し合い、学習の振り返りなどのスタイルを授業に取り入れたため、身に付けさせることができた。
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力
自立解決で自分の考えをしっかりと持ち、その理由や根拠が説明できる力を身に付けさせたい。
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか
今後も手立てとして、「導入時での既習事項の確認」や「自分の考えをもちその根拠を説明すること」「学習の振り返りでは、自分の言葉でまとめること」を引き続き指導していきたい。

特別支援学級 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（2年次）

1 特別支援学級研究目標

主体的に学び、共に輝く子どもを育てる特別支援のあり方を求めて

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- アンケートを実施し、一覧表にまとめたことはプレゼントを考える上で有効であった。
- 写真や絵などが児童の考え（意欲）を引き出していた。
- インタビューのビデオを見せることで他の友達をモデルにしたり、自分の行動の良いところ悪いところに気付いたりして次の活動に生かすことができた。
- 集団で考えさせる場、一人で考えさせる場など個別の配慮を工夫した方が良い。
- 一覧表の情報量が多かった。→必要な情報だけを抜いたり、手元に置いたりして考えさせるようにする。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- 互いに評価し合う（認め合う）場があり、よかった。様々な表現（語彙が豊富）を使って認め合いができていた。
- ねらいを意識した話し合いができればさらによかったのではないか。
- 実態に応じてグループの編成を考えてもよいのではないか。
- 困ったときの訊き方などパターンを教えてもよいのではないか。

【視点3】学びを振り返り、日常生活に生かす指導の工夫

- 進んで手を挙げて発表し、お互いに認め合う姿などから、日常生活（がんばったことの発表の場、安心して発表できる雰囲気）の積み重ねが表れている。達成感や自己肯定感を高めることができてきている。
- 授業の流れを提示することで、学習に見通しを持って活動できた。

3 考える力を育む授業をつくために（次年度に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと
 - ・相手（先生方）のことを考えて活動することができるようになってきた。
 - ・インタビューなどの経験をすることができた。
 - ・互いに認め合うことができるようになってきた。
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力
 - ・相手（友達）のことを考えて行動する力
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか
 - ・コミュニケーション能力を高める。
 - ・よいところの認め合い。（日常生活、生活単元）

○学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（2年次）

1 ○学年研究目標

考えたことを整理し、自信を持って言葉で表現する能力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- 児童の生活体験とむすびついた、興味のある題材を設定すること、ロールプレイを取り入れること、挿絵や本児の描いた絵を補助的に使うことで、児童がイメージを持って進んで考え、話そうとすることができた。
- 自分の言葉を使って考えることができるような働きかけの工夫を今後も考えていきたい。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- 他の通級児童の考えも取り入れることで、自分の考えを広げることができた。
- 深い学びが持てるように、他の通級児童の考えに対する感想を聞く等工夫する必要がある。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- 授業のめあてを明確化し、振り返る場面を設定したことで、達成できたこと、課題として残っていることのそれぞれを児童と共有することができた。
- 個別指導で、自分の考えを深め、それを伝えるという経験ができたことは、在籍学級でも発表してみようとする意欲と自信につながったと思われる。
- 日常生活に生かせるように、個別指導で具体的に教えるような丁寧な指導を心掛ける必要がある。
- 日常生活で生かしているかどうかの確認をする必要がある。

3 考える力を育む授業をつくるために（次年度に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと自分のこととして考え、話そうとする力。
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力今年度と同じく、自信を持って言葉で表現する能力。
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか今年度の研究主題を継続したい。有効な手立てについて、より研究を深めていきたい。